



発行人

仙台市議会議員

青葉区

市民と未来のために

伊藤ゆうた

仙台市政報告

議員定数半減条例を推進する 「改革派市長」と政策懇談

伊藤ゆうたは、**広島県安芸高田市市長石丸伸二氏に議員定数半減条例の提出等、現在の地方自治へ問題提起を続ける市長の思いや議会議員のあり方について実際に安芸市を訪ね、市長から直々にお話を伺いました。**

石丸市長は「居眠りする。一般質問をしない。説明責任を果たさない。恥を知れと声が上がってもおかしくない」と、議会や議員に対して非常に厳しい発言をされていることでメディアからも注目されています。**伊藤ゆうたからも、仙台市議会の市政与党が多数を占める議会構成や、市議会の現状についてお話をさせていただきました。議会改革についての熱き論議を重ね、改革マインド溢れる石丸市長と、地方議会改革への思いを共感しました。**



▲広島県安芸高田市市長 石丸伸二氏と政策懇談

物価高対策予算を大幅拡充すべき！

～仙台市独自の子育て給付金を～



去る令和4年第3回定例会で伊藤ゆうたは「**電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金**」について**支援の拡充**を提言しました。円安や世界情勢から影響を受け、わが国の電力・ガス・食料品等の価格高騰が止まりません。そして負担増による家計への影響は、私たち仙台市民の多くに波及しており、特に食料品の価格高騰は顕著です。現行案では住民税非課税世帯等に限定されています。

そこで伊藤ゆうたは、他自治体の物価高対策の事例をあげて、仙台市でも独自の物価高対策を進めるよう提案しました。特に、物価高影響が直撃している**子育て世代への仙台市独自の給付金**を求めました。引き続き**市民の暮らしの実情を、生活者視点で「子育て世代の声」**を議会に提案して参ります。

こどもたちの貧困の連鎖を止める。

塾代・習い事助成制度の実現を



令和5年第1回定例会において子どもの貧困対策を提言しました。日ごろから「日々の暮らしでいっぱい一杯。特に教育費負担が大きく、習い事や塾にお金をさくことが大変！本当は子どもを習い事や塾に行かせたい」という声が、多くの市民の方々から私の所に寄せられています。

大阪市や千葉市は「民間の塾や習い事など教育目的」に使用を限定したクーポンを直接給付する「教育バウチャー制度」を実施しています。これは子どもたちのチャンスを広げていく、そして子どもの貧困対策にも有効な取り組みだと思います。

千葉市は「千葉市学校外教育バウチャー制度」として学習塾、家庭教師、スポーツ活動、文化活動等の教育サービスに使えるクーポンを児童に交付しています。そこで私は本市でも、こどもの貧困対策と格差是正につながる塾代・習い事助成制度の実現を強く求めました。

公務員の天下り団体はいらない！

こども財団に市役所OBではなく民間人理事長を

令和5年第1回定例会において、具体的な事業内容や理事長人事の方向性、組織体制が説明されないまま「仙台こども財団(仮)」提案されました。これはおかしい！と私は判断し、すぐに公文書開示請求を求め、開示された文書を用いて行政に真意について質問しました。また財団設立の趣意に則った人事が何よりも求められる背景から、理事長には経験、見識ある民間人から登用することを提言しました。そして限られた財源を有効に活用するために、民間からの寄付を財源とした、子ども子育て支援金の導入も併せて求めました。

伊藤氏は「外郭団体は市職員の天下り先になってしまつと、心配する市民がいる。退職者以外から入選すべきだ」と指摘。郡和上市長は「子育てが楽しい仙台の実現に向け、退職者か否かにかかわらず、理事長に最適な人材の選任を検討したい」と語った。

▲河北新報 令和5年2月21日朝刊から引用

改革を進めていきます！

詳しい一般質問や質疑は

仙台市議会インターネット議会中継

検索

発行会派 市民と未来のために 市議会会派室
仙台市青葉区国分町3-7-1 mail: info@itoyuta.com
090-7566-5159 (伊藤優太直通)